

第7回加古川市かわまちづくり協議会 会議録

日 時	令和6年10月1日(火) 午前10時15分 から 午前11時 まで
場 所	加古川市民交流ひろば 会議室1
出席者	<p>加古川市 岡田市長(議長)          国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 池田所長          加古川市町内会連合会 岡本会長          加古川商工会議所 釜谷会頭          加古川漁業協同組合 成川副組合長(代理)          兵庫県東播磨県民局 野北局長(オブザーバー)</p> <p>国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 杉野総括保全対策官          " 井谷占用調整管理官          " 調査課加古川・揖保川流域治水室 加藤係長          " 山根技官</p> <p>加古川市 川西副市長、中田副市長          建設部 溝渕次長</p> <p>【事務局】          市民協働部 松下部長、山野かわまちづくり推進担当参事          市民活動推進課 伊藤かわまちづくり推進担当副課長、村上係長、          澤中主査          治水対策課 田中課長、乾かわまちづくり推進担当副課長          公園緑地課 中居かわまちづくり推進担当副課長</p>
傍聴者	0人
<p>■会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料① 第7回加古川市かわまちづくり協議会出席者名簿</li> <li>・資料② 加古川市かわまちづくり協議会設置要綱</li> <li>・資料③ 賑わい交流拠点整備運営事業について</li> <li>・資料④ かわまちづくりエリアの整備概要について【国】</li> <li>・資料⑤ かわまちづくりエリアの整備概要について【市】</li> <li>・資料⑥ 河川空間のオープン化に向けた取組・リバサイトについて</li> <li>・資料⑦ かわまちづくりスケジュール(案)</li> <li>・資料⑧ 令和6年度協働のまちづくり推進事業補助金(テーマ設定型)</li> </ul> <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわまちづくり新聞折込チラシ(令和6年5月)</li> <li>・広報かこがわ特集(令和6年6月)</li> </ul> <p>■会議要旨・質問・意見</p> <p>1 賑わい交流拠点整備運営事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事務局(市民協働部かわまちづくり推進担当参事)から資料③に基づき説明。</li> <li>➢ 賑わい交流拠点整備運営事業の優先交渉権者が「SAVE KAKOGAWAコンソーシアム(代表企業:株式会社ムサシ)」に決まったことを報告。</li> <li>➢ 提案内容として、公共ゾーンに屋外トイレや洗い場等を、民間ゾーンには飲食施設や屋外シャワー等を整備するものであったことを報告。</li> <li>➢ 今後は、基本協定を締結し、設計・工事を経て、令和10年4月に全体オープンする予定である</li> </ul>	

ことを報告。

(質問・意見)

意見なし

## 2 かわまちづくりエリアの整備概要について

- 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 杉野総括保全対策官から資料④に基づき、かわまちづくりエリアの整備概要（国施工部分）について説明。
- 令和5年度は、加古川バイパス南側の階段護岸の整備や坂路出入口の幅員を拡幅するため盛土したことを報告。
- 令和6年度は、管理用通路や階段護岸等を整備することを報告。
- 3Dモデルを活用し、立体的な設計をホームページ等で発信することを報告。
  
- 事務局（公園緑地課かわまちづくり担当副課長）から資料⑤に基づき、かわまちづくりエリアの整備概要（市施工部分）について説明。
- 令和6年度は、加古川バイパス南側のグラウンド整備や臨時駐車場等を整備することを報告。
- かわまちづくりエリアを上流から順次整備することを報告。

(質問・意見)

意見なし

## 3 河川空間のオープン化に向けた取組について

- 事務局（市民協働部かわまちづくり推進担当参事）から資料⑥に基づき説明。
- 民間事業者等が営利活動を行うことができるように、都市・地域再生等利用区域に指定する、いわゆる「河川空間のオープン化」に向けて国に要望していくことを報告。
- 市がこれまで取り組んできた社会実験（河川敷を活用したかわまちづくりイベント・加古川デリバーKitchen）や賑わい交流拠点の整備に向けた取組を継続する中で、加古川のさらなる利活用と新たな賑わい創出への期待が高まっており、河川空間のオープン化に向けた機運が醸成されてきていることを報告。
- 河川空間のオープン化を実現するには、地域の合意形成が必要であることを報告。
  
- 賑わい交流拠点整備運営事業の優先交渉権者は、河川空間の利用に関する規制緩和として国土交通省が展開するリバサイト制度を活用したいとの意向を示していることを報告。

(質問・意見)

岡田市長 : 来年度に河川空間のオープン化の実現に向けて国に要望書を提出することを目指し、今年度末に本協議会を開催し、要望書（案）を提示する予定である。本協議会で同意を得た後、国に提出したい。

## 4 今年度の取組状況と今後のスケジュールについて

- 事務局（市民協働部かわまちづくり推進担当参事）が資料⑦⑧に基づき、今年度の取組状況と今後のスケジュールについて説明。
- 広報かがわ11月号では、賑わい交流拠点の整備イメージを特集として掲載予定。
- 今年度の「加古川市協働のまちづくり推進事業補助金」を活用した河川敷イベントは14件のうち11件（うち1件は高水敷の浸水により中止）が終了。
- 賑わい交流拠点を整備・運営する事業者と令和6年12月に建設・譲渡契約を締結する予定。

## 5 その他

(質問・意見)

意見なし

以上